



及杜ななめ

act.4

片想いの

イケメンお兄さんに

カラダも墮とされて

抜け出せません

ai

でも

アゲアゲ



ニフイヤ
Laffiya



どこへ行くの？

— 爽介

…言わなくても知ってるんじゃない？

物心がついた頃から僕は人の気持ちを理解できない人間だった
その場にふさわしい言葉は適当に出せる
だけど人間が理解できないものを嫌悪する傾向があるように

…あなた最近遊びすぎだわ
この家を継ぐ立場だという自覚を持ってちょうだい
…わかってますよ



僕もそれを嫌悪した



— 今日稽古はここまで

小鳥遊家は代々芸能を牛業とする家系で舞踊の名門
僕はそこで生まれた



それを目的に近づき媚びる人間は多くて

え〜！私の家にも来てほしい〜！

親に小鳥遊くんの話をしてらせひ会いたいって

機会があればお邪魔します

それは光栄です



…くだらなく

僕が周りの「理想」に合わせているだけとも知らずに

芸能一家の後継という肩書きや容姿





クズでも愛して？

片想いのイケメンお兄さんに
カラダも堕とされて抜け出せません

act.4

著者 及杜ななめ

2024年10月3日 発行

発行所 株式会社アーク・プレス

※本書の一部、あるいは全部を無断で
複写複製(コピー)、転載、上演、放送することは
法律で認められた場合を除き、
著作権の侵害となるため、禁止します。

©Oimori Naname/Laffiya